



給水区域内に広く分散している配水池やポンプ所等の施設をこの大きな画面で一元的に管理しています。

# 水を止めない 運用力。

長年にわたって蓄積された配水データと職員の経験。さらに施設の常時監視が安定供給を守ります。

**寒** 川浄水場水運用課では、相模湾沿岸と相模川流域の11市4町に効率よく、安定的に水が届けられるように、配水量のコントロールと配水施設の監視を24時間3交替制で行っています。

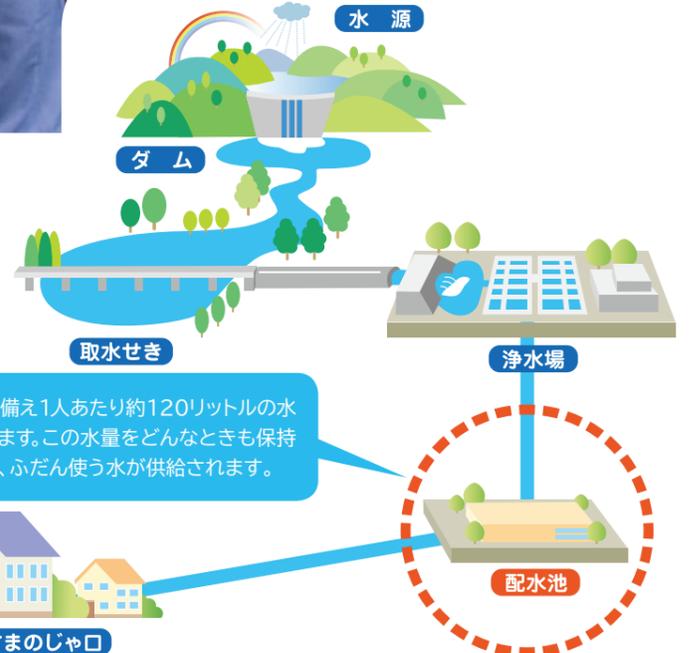


また、配水施設に停電や予期せぬトラブルにより障害が発生した場合も、休日、夜間を問わず現場に急行し、影響を最小限にとどめるように努めています。

「配水運用管理システム」には、過去の天気、気温と水の使用量などのデータが蓄積されており、シミュレーション予測ができますが、大切な水を無駄にしないよう常に最適な水量とするためには、このほか最新情報の取得と、それを細かくチェックする職員の知識や経験が欠かせません。

**自然災害や設備の故障など万一のトラブルに備えて、災害対策が幾重にもはりめぐらされています。**

切れ間なく水を送ることができるよう、寒川浄水場には、停電などの非常時に浄水場の機能を維持するための備えとして、自家発電機が設



置されており、加えて、「配水運用管理システム」のコンピューターが一瞬でも停電しないように蓄電池を搭載した無停電電源装置が常時稼働しています。

さらに、このシステムの通信網は、回線が二重化されており、1つの回

線で災害等による障害が発生した際には、もう1つの回線での通信に切り替わるため、施設の監視・コントロールを継続できるようになっています。

これからも県営水道では、災害対応力の一層の強化を図り、お客さまに安定した給水を行っていきます。

.COLUMN.

## 使用量が急変!? いつもと違う 水の動き



今年の話題といえば、「2018 FIFAワールドカップロシア大会」。いつもと違う水道使用量の動きがはっきりと表れていました。

みなさん、試合中は観戦に夢中でハーフタイムや試合終了まで、トイレに行くのを我慢したり、いつもより遅い時間にお風呂に入りませんでしたか？

浄水場では、いつも同じ量の水道水をつくるのではなく、過去のデータや経験から使用量を予測して、今日もムダなく水道水をつくり、みなさんが「いつでも水が使える」ように運用を行っています。

6/19 日本対コロンビア戦中継時の水道使用量の変化

